2016-2017活動報告

オヤジ達の国際貢献（12）

認定特定非営利活動法人

JMAS 日本地雷処理を支援する会

Japan Mine Action Service

発刊に寄せて

会員の皆様には、日頃から日本地雷処理を支援する会（JMAS）に対し心温まるご支援を頂き心から感謝申し上げます。

この「オヤジたちの国際貢献（12）」は、2016年度のJMASの活動についての写真と簡潔な記述による報告です。JMASは、現在、カンボジア、ラオス、アンゴラ、パラオで活動していますが、 現地で活動している要員の方々は、 2016年度も、厳しい生活及び事業環境の中で、それぞれの現地代表を核心にそれぞれの事業に真摯に取り組み、目に見える形で成果を残してきました。

これらの成果は、現在活動中の皆さんの成果であることは勿論ですが、本年夏に発足から15年目を迎えるJMASのこれまでの歩みの中で、当事国の政府や現地の人々の理解を得ながらJMASの事業に携わってこられた多くの方々や、これを支え続けてこられた法人や個人の会員・寄付者の皆様、日本政府、特別協力企業・団体等の皆様の努力と忍耐の成果でもあります。

現地では、物事は、当然ながら日本の尺度では進みません。私も、各国からの日報を読みながら、改めてこの活動の難しさやJMASとしての課題を感じています。今後とも、会員を始め皆々様のご指導ご支援を賜りながら活動に邁進していく所存です。2017年度もよろしくお願い申し上げます。

会長　　折木良一

JMASの活動は、今年で15年の節目を迎えました。活動開始当初は、資金面や海外での活動経験の不足から、現地で直接処理や管理に当たられた方々も、本部で会の様々な分野を整備された方々も、大変なご苦労をされたと聞いております。

お蔭で今、JMASは、こうした皆様方のご苦労を糧として、カンボジア、ラオス、アンゴラ、パラオの4ヶ国で計7個事業を行うまでに成長し、今年は新たにミクロネシア連邦共和国で1個事業を行うべく準備を推進しているところです。

私共も、諸先輩が貫かれたボランテイア精神を堅持するとともに、活動する国々や現地の実情と人々の目線に合わせた地道な活動をしていきたいと思います。

JMASの活動は、皆様のご支援とご協力で成り立っております。今年度も、引き続き温かいご支援ご協力をお願い申し上げます。

理事長　荒川龍一郎

1　概観

2016年4月～2017年3月活動国

（1）地雷不発弾（ERW）問題の現状

2016年度も、世界では、国連の専門機関であるUNMASと世界のこの分野の主なNGO4つだけでも、196ヶ国中50ヶ国以上で、地雷不発弾等（ERW）の除去支援、要員訓練、関係機関の整備や能力強化、危険回避教育、現地調査、被害者支援、武器弾薬の管理強化支援、DDR等の地道な努力が続けられました。これらのうち多くの国々では、これらの支援が同時並行して行なわれています。1990年代からのこうした努力で、これらの国々は2020年前後を目安にこの問題の解決に取り組んでいますが、ERWの残る土地の使用は極めて危険で、危険回避教育でも死傷事故を絶やすのは困難です。加えて、こうした国々の多くが後発開発途上国（LDCs、2014年は48ヶ国だったが、2025年には32ヶ国になると見積られている）です。

こうした条件もあって、カンボジアやラオスなどERWで重度に汚染された国々は目標達成年度を遅らさざるを得ず、シリアでは今も新たな汚染地域が生まれているようです。近年は、即製爆発装置（IED）も新たな課題となっています。

（2）JMAS 2016－2017活動概観

JMASは、2016年度即ち平成28年度も、ERW問題のこうした特性上、これをNGO連携無償資金協力の「重点課題」の一つとしている外務省や、個人及び法人の会員・寄付者の皆様、そして、特別協力企業・団体等の物心両面の御支援・御協力を得て、カンボジア、ラオス、アンゴラ、パラオの4ヶ国で7ヶ事業を行ない、ERWの残る危険な土地や海域を「安全で生活や生産が可能な土地や海域」に変え、地域や国々のこの問題の最終的な解決を支援してきました。

カンボジア、ラオス、アンゴラでの事業は、〇地雷除去支援、〇不発弾処理支援、〇当事国のこれらの要員の教育や訓練、〇教育訓練施設の建設、〇地雷を除去した地域での学校や道路や橋などの建設、〇住民の生活改善への貢献など幅広い分野に及んでいます。 このうち、新開発の専用処理機でのラオスにおけるクラスター子弾の処理事業は、始まったばかりですが処理速度は逐次上がりつつあり、ラオスのみならずカンボジアや米国などの関係機関も注目しています。

パラオでは、沈船内の爆雷からの有害物質の漏洩防止処置を定期的にフォローしつつ、同国に所在する多数の沈船内と周辺海域でERWの調査を行ないました。更に、ミクロネシア政府の要請で、同国の海域での沈船からの油漏れへの対応を準備するとともに、日本政府による遺骨収集事業に伴う支援も検討中です。

（3）展望

長年の世界的な努力による被害者数の減少で、この問題への関心はやや低下傾向にありますが、現実にはまだ（1）に述べた状況です。膨大な数のクラスター子弾の処理は、専用処理機の登場で処理の促進が期待できそうですが、それでも息の長い取り組みを要するでしょう。

ERWと世界の取り組みのこうした現状から、日本のNGO活動の中では特異なこの分野で、JMASが国際社会に貢献していく意義は引き続き大きく、本会に期待を寄せて頂き、活動の条件が整っている限り、一層強靭な体質を整えつつ、引き続きこの問題に取り組んでいくことが、現地の人々や地域や国々、ひいては国際社会のために望ましいことは言うまでもありません。

2　国別活動状況

(1)カンボジア王国

カンボジアは、ベトナム戦争(1965～1973年)当時、約275万トン以上の爆弾が投下されたと言われています(「これからの道のり2017～2025」:CMAC資料)。また、カンボジア内戦(1970～1991年)により、大量の地雷及び不発弾で汚染されました。カンボジアでは、長年地雷・不発弾の処理が行われてきましたが、いまだに年間約110人の死傷者を出しています(Landmine Monitor Report 2015年)。カンボジア政府は、2025年までに人的被害をなくすという国家目標を掲げ、日々地雷・不発弾の回収・処理を行なっています。

JMASは、CMAC(カンボジア地雷処理センター)の教導チームと連携し、処理要員の教育を行い、地雷・不発弾処理能力の向上と処理の促進を図っています。

不発弾処理

不発弾事業は、3ヶ年事業である「CMACに対する不発弾処理に係る能力構築支援事業」の第2期事業を2017年2月28日に終了し、2017年3月1日から第3期事業を開始しました。この事業では、不発弾処理だけでなく、地雷、クラスター弾を含むERW(爆発性戦争残存物)を処理するチームの能力向上を図るもので、座学と実技実習により、一般処理員から教官要員までの教育を実施しています。第2期事業では、6個チーム(30名)に教育を実施しました。第3期事業では、第2期事業と同様6個チーム(30名)に教育を行う予定です。

教場における学科教育

計画作成教育

爆破処理実習

地雷処理

地雷事業は、3ヶ年事業である「CMACに対する地雷除去に係る能力構築支援事業」の第2期事業を2016年10月7日に終了し、10月8日から第3期事業を開始しました。この事業では、コマツから無償貸与された対人地雷除去機(以下地雷除去機)を活用し、機械と人力による統合地雷処理教育で、座学と実習により一般処理要員から教官要員までの教育を実施しています。第2期事業では、教導小隊及び2個機動小隊(91名)に教育を実施しました。第3期事業では、教導小隊及び2個機動小隊(約90名)に教育を行う予定です。

テント教場での学科教育

地雷除去機による地雷処理

人力による地雷探査

安全な村づくり

この「コミュニティ総合開発プロジェクト『安全な村づくり（Safety Village Construction Project：SVC）』」では、主にコマツからの寄附金をもとに、カンボジア国内の地雷除去後の安全化された土地での道路建設や生活用水等のインフラ整備を行い、小学校建設を含め、地域住民が安心して暮らせる生活・経済環境を整えています。

地域のインフラ整備

2016年度は、カンボジア王国バッタンバン州バナン郡チャイミンチェイコミューン及びスナンコミューン内で活動を実施し、チャイミンチェイコミューン内では、既存道路の整備、暗渠の構築、小学校の建設を行いました。これらの事業はカンボジア地雷処理センター（CMAC）と協同で実施しています。

冠水や損壊の防止に大切な小橋

整備開始時の道路

整備後の道路

学校建設では、 2016年12月1日にルン村に7校目のチャランチョットコマツ小学校が完成し、授業が開始されました。同日の2016年度SVC事業終了引渡し式典の席上、JMAS会長の祝辞の後、CMAC長官からJMASの活動に対する謝辞がありました。また、長年のJMASの活動に対し「カンボジア王国友好勲章」がJMASスタッフ全員に授与されました。

旧校舎

完成した新校舎

折木会長の祝辞

給水設備

浄水器も設置

完成を祝う両国関係者

そして8校目に12月から着工し、現在建設中で2017年5月に完成予定です。これは、9月に現地を視察したコマツみどり会会長である室戸鉄工所より寄付金を頂き建設中の学校です。

なお、このコマツみどり会からは、訪問にあわせて、過去に完成した小学校に井戸1基・貯水槽4基のご寄付を頂きました。本年度の成果として、暗渠は8ヶ所を構築。道路整備延べ約9,500m、側溝整備は約8,000mを実施しました。

室戸鉄工所とコマツの支援で建設中の小学校（左：現況、 中・右：建設中の新校舎）